



## 今日のキーワード 『訪日外客数』は韓国減少も東南アジア2桁増

日本を訪れる外国人旅行者の数（『訪日外客数』）を知るには、日本政府観光局（JNTO）が発表する『訪日外客数』が参考になります。11月発表の『訪日外客数』（2019年10月推計値）は、1-10月累計で2,691万人となり、昨年を上回りました。但し、前年同月比では▲5.5%となり、『訪日外客数』が多い韓国の大幅減の影響が顕著となりました。東南アジア各国は前年同月比2桁増となりました。

### ポイント1 1-10月累計で2,691万人、前年同期比3.1%の増加 10月は前年同月比▲5.5%の249万7千人

- JNTOが20日に発表した2019年10月の『訪日外客数』（推計値）は、1-10月累計で2,691万人となり、前年同期比+3.1%増加しました。
- 一方、10月単月では前年同月比▲5.5%の249万7千人となり、昨年10月の264万1千人を下回る結果となりました。韓国人観光客が昨年10月は57万1千人であったのに対し、この10月は19万7千人となり、前年同月比▲65.5%にまで減少しました。

### ポイント2 韓国は減少、東南アジアは2桁増 ラグビーワールドカップで8万1千人増加

- 10月の『訪日外客数』を国・地域別で見ると、韓国の大幅な減少が目立ちます。最近の日韓情勢を背景とした航空便の減便や運休、訪日を控える動きに加え、韓国経済の低迷やウォン安傾向などもあり、韓国人観光客は大幅に減少しました。
- 一方で、ラグビーワールドカップ2019の日本開催や東南アジアからの観光客が好調だったことは『訪日外客数』の押し上げ要因となりました。ラグビーワールドカップの出場国からの観光客は前年同月比で8万1千人増加しました。英国が前年同月比85.6%増加したほか、豪州、フランス、カナダなども好調でした。
- 東南アジアからの観光客も東京モーターショーや訪日プロモーションなどが貢献し、タイ、インドネシア、フィリピン、マレーシアなど全ての国で2桁増となりました。

【訪日外客数（2019年10月）】

国・地域	総数(人)	変化率(%)
中国	730,600	2.1
台湾	413,700	9.0
韓国	197,300	▲ 65.5
香港	180,600	6.6
米国	153,400	6.5
タイ	145,300	23.2
英国	68,400	85.6
フィリピン	64,700	36.7
豪州	51,600	8.8
マレーシア	48,900	24.9
その他	442,100	-
総数	2,496,600	▲ 5.5

(注) データはJNTOによる推計値。上位10カ国。変化率は前年同月比。

(出所) JNTO資料を基に三井住友DSアセットマネジメント作成

### 今後の展開 韓国人観光客の減少は続くも『訪日外客数』は昨年を上回る見込み

- 日韓関係の冷え込みを背景に韓国人観光客の減少は今後も続くと見られますが、韓国以外の国からの訪日客数は総じて順調に推移しており、2019年の『訪日外客数』はこれまでのペースが続けば昨年の年間3,119万人を上回る3,200万人前後となり過去最高を更新する見通しです。

ここも  
チェック! 2019年11月 5日 宅森昭吉のエコノミックレポート  
2019年10月24日 ラグビー-W杯効果で『訪日客』が増加

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。